



# 中央ウェイ

# 2月号

## ～「聞こえないこと」が社会に知られるということ～

副校長 姫野 滋子

令和5年を迎えて、1か月が経とうとしています。今年度も残り2か月ほどですが、引き続き。通常の授業や学校行事、新型コロナウイルス感染症の対策等、生徒の皆さんが安心して学校生活を送ることができるよう、教職員一丸となって、教育活動の充実に努めてまいります。

最近、「手話」を扱うドラマや出版物が、巷では話題になっているようです。私は情報の一つとして、ろう者や難聴者が登場人物であったり、ろう、難聴の当事者の方が作成の主体や監修などで関わったりしているドラマや映画、本などをなるべく見る（読む）ようにしているのですが、ろう者、難聴者、中途失聴者やその方々にかかわる人々、ろう学校あるいは手話そのものがいろいろな見方で描かれています。私は当事者ではないため、分かったような顔はしないようにしようと気を付けています。当事者の方でも、それぞれ違う経験や考えをお持ちで、受け止め方は人によって違うのだということも感じています。

ろう者や難聴者、中途失聴者が主役のドラマが話題になると、手話を習う人が一気に増えるそうです。また、手話に関する出版物も、手に入りにくくなる場合があります。手話やろう者、難聴者や中途失聴者に対する興味が一過性のものではなく、本当の理解につながってほしいと思います。私たちろう学校は、一時的なものではなく、当たり前前にここにあって、年齢も性格も、考え方も聴力も、そして主たるコミュニケーション手段も様々な生徒の皆さんが、毎日をここで過ごしています。そのことを知りたい、かかわりたいと思う人が少しでも増えるといいなと思っています。

また、皆様もご承知の通り、デフリンピックが2025年に日本で開催されることが決定し、東京都でも、デフリンピックに向けて様々な取組を進めています。東京都教育委員会や東京都の他の部署、またメディアからも、本校に問い合わせや見学がいくつも来ています。「中央ろう学校とは」「聞こえないとは」「ろう者や難聴者がスポーツをするときに必要な配慮は」など、様々な説明を差し上げ、生徒の皆さんや校内の施設を見ていただいています。

先日、本校でも、卒業生のデフリンピアンをお招きしてお話を伺い、スポーツ体験をする会を行いました。2025年のデフリンピックには、本校の卒業生や現在在籍している皆さんがきっと出場することでしょう。中央ろう学校がデフリンピックの準備や運営にかかわることもあるかもしれません。

日々の生活の中で、あるいはドラマやデフリンピックなどの機会をきっかけに、聞こえない人たちのことが社会に広く知られて、お互いが自分らしく生きていくための環境が整うことを強く願っています。

# 学校での様子

## 12月14日（水）大学授業体験

4年生は、12月14日、東京学芸大学グループ・目白大学グループ・亜細亜大学グループに分かれて大学授業体験をさせていただきました。パソコンテイク・UDトーク・手話通訳などの情報保障をしていただきながら講義を受けました。その後大学構内や支援室の見学をしたり、学食で昼食をとったり、大学生の日常を体験することができました。また、中央ろうの先輩が在籍している大学では、先輩から話を聞いたり、ボランティアの学生に話を伺ったりしました。



## 1月11日（水）サポートスタディ（中学部）

1月11日（水）本校の中学部では、毎月1～2回程度、希望者がサポートスタディに参加しています。

主に水曜日の放課後に行われ、早稲田大学手話さあくるの学生が来校し、学習支援に当たっています。講師は、自習を行う生徒たちの様子を見守りながら、生徒からの質問に対してアドバイスをしています。生徒たちは学習に集中して取り組んでいます。

## 1月18日（水）数学の授業の様子

1月18日（水）の5年Sグループの数学の授業の様子です。

基本的に教科書の内容に沿って進めていますが、大学入試に向けて更に力をつけるために、様々な大学の過去問にも取り組んでいます。難易度の高い問題に数多く触れることで、思考力が養われ応用力が身についていきます。

